

## 『 駅 伝 』と『 道 』

尾崎 健吾

昨年度から引き継ぎ監督をすることになりました。1月の都道府県駅伝では目標としていた20位以内を達成することができませんでした。目標は『強くてタフな山口県』チームをめざすことです。

強いとは当然試合に個人個人が勝つこと、ベスト記録を更新すること、日常の練習に前向きにコツコツと取り組むことです。合宿や合同練習に参加するみなさんにとっては、あたりまえの目標だと思います。ではタフなチームとはどんなチームでしょうか。

この駅伝の意義は、中学生、高校生、大学生、社会人まで、年代を越えてチームを組み、故郷の誇りを感じ、今まで支えてくれた家族、学校、会社、地域、そして山口県の人々に、走ることで感謝の気持ちと勇気を伝えることです。

今回の都道府県駅伝を見て、何を感じましたか？アンカーを務めた青山学院大学の田村選手は、あえて時計をはずし前だけを見て走りました。走り終わって、「若い選手に、最後まで勝負にこだわる姿勢を見せたかった」とコメントしました。いかなる状況であろうが、決してあきらめない粘り強い気持ち、どんな環境にも適応できる能力を先輩として遺憾なく発揮してくれました。

今後の目標『強くてタフなチーム』をめざすには、一人ひとりがこれから目標とする大会で最後まで決してあきらめない気持ちで勝負に臨み、自己ベストを更新し、強くなってください。負ける時もあります。その失敗さえも次への成功にするエネルギーにし、暑い日も寒い日も、調子のよい日も悪い日も、練習に取り組むタフさを育ててください。

そして今年もすべての主要大会が終わって新しい年を迎えると、オリンピックをはじめとする各部門で活躍したトップランナーが広島に集まります。それらの選手の雰囲気を感じながら戦うことができるのは、7人。しかしこの7人の選手の走りが新しい『道』となり確実に多方面へ広がります。

柔道や剣道のような日本の武道に使われる『道』には、決して終わりが無いもの、無限大に広がるものという意味があります。長州藩では、武士の心身鍛練を目的として早走（萩～三田尻間）が取り入れられていました。歴史の重みと風を感じながら、走りの伝統を引き継ぎ『強くてタフな山口県』を合言葉に20位以内を目標に新たに挑戦しましょう。